

富山県 ^{かみしま} 神島地区元気な地域づくり計画の成果事例

農業生産基盤の整備

地域づくりの目標

- ・農業用排水施設(農道)の機能の向上
(目標:11.6ha)
- ・維持管理費の節減による農業経営の安定・向上
(目標:118千円)

計画に至る背景

本地区は砺波市の西部に位置し、昭和48～53年度に、団体営ほ場整備事業が実施されたが、本農道は砂利道で、降雨や農作業車の通行等による路面の損傷が著しく、近年の機械体系の中で農業資材、農産物の集積及び運搬に支障を来している。また、維持管理に苦慮していることから、早急に路面改良を実施し、農産物の品質向上及び営農の効率化の観点から農業農村の振興を図ることとした。



富山県砺波市位置

代表的成果

- ・農道整備により機能が確保された農地の増
11.6ha(H20)
- ・目標どおり年間維持管理費の減少を達成
1,721千円(H18) → 86千円(H20)

事業実施効果

草刈りや軽作業、運搬における農作業時間の短縮により、農家の負担軽減が図られた。砂利敷設等の維持管理が低減し、農業コストの低下が図られた。特産作物の運搬が容易になり、品質の向上が図られた。他地区から本地区へ集積されてくる飼料作物等について、並行する他の道路が通行不能時に、バイパスとしても利用可能となった。

取組活動の概要

農道の舗装

平成18～19年度、砺波市が、農道舗装を938m実施した。

事業実施前



事業実施後



今後の課題・展望

農道整備を行ったことで、除草時間の軽減や農業コストの低下が図られたことから、これらの時間や経費等を、より有効に経営に活かすことが課題である。

今後は、特産物のブランドイメージの構築など更なる農業経営の強化を図りたい。



石川県 羽咋地区元気な地域づくり計画の成果事例

中山間地域等の振興

地域づくりの目標

美しく活気あふれる郷づくり

地域産物の販売額の増加率

17,660千円(H17)→28,844千円(H19) 63.3%増

計画に至る背景

自活自立できる農村集落づくり

羽咋市では、「羽咋イズム」(地元にある地域資源を活用する理念)を農林漁業の政策テーマとして、未活用資源の発掘と活用を地域振興策として掲げ、一次産業である漁業と農業とを活性化させる計画(海彦・山彦計画)を実施することとした。

特に神子原地区においては、高齢化・過疎の進展が著しく、地域活力が低下している。このため、神子原地区において生産者と消費者が直結し、農業所得が向上するよう、直売所等を整備し、地域資源の利活用により地域の活性化を図ることとした。



石川県羽咋市位置

取組活動の概要

中山間地域の農業の二次産業化の推進による振興

平成18・19年度に、羽咋市が農林水産物処理加工、直売・食材供給施設(1棟285.1㎡)、穀類等乾燥調製貯蔵施設(1棟168.2㎡)を整備。

当施設は地域農産物の商品化、農産物のブランド化及び農家所得の向上を目指し設置したものである。

現在、神子原地区農家100%出資により設立した(株)「神子の里」が当該施設を管理運営している。

売り上げ・集客とも計画以上の成果をあげており、集落の自活・自立を促進し、結果、目標を大きく上回る取組となっている。



代表的成果

63.3%増の目標に対して、101.5%の増加
達成率160.35%

地域産物の販売額の増加率

17,660千円(H17)→35,581千円(H19)

目標達成の要因

米のブランド化に向けて、「神子の原」で獲れた「米」としてローマ教皇に献上するなどPRに努め、美味しいもののみを厳選して、安売りをしない(42,000円/60kg)など、販売戦略を構築し実行できたこと。

施設の整備により、地区地域で「生産」「管理」「販売」という一連のサイクルを持ち、農家が自ら生産し販売価格を決め、直接売ることによって、地域に元気がでてきたこと。

これらのことは、地域農家出資の株式会社の立ち上げによる地域雇用創出や、新規就農者を含むUターン者8名受け入れにも繋がっている。



今後の課題・展望

すでに調査中であるが、神子原地区の未活用資源の発掘や新たな派生品の開発など、神子原ブランドの更なる発展が課題となる。



福井県 名田庄地区元気な地域づくり計画の成果事例

グリーン・ツーリズム、
都市農業の振興

地域づくりの目標

もてなしの心とゆっくりした時間を大切にする名
田庄型グリーン・ツーリズムの推進

宿泊者数の増加率 2,500人(H17)→2,750人(H20)10%増

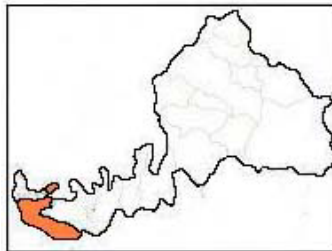
体験プログラムの増加数 9本(H17)→12本(H20)3本増

計画に 至る背景

田舎暮らし体験エコ・グリーンツーリズムの取組み

当地区では、平成13年に「名田庄の
荘郷づくり構想」を策定し、美しい自然
景観に合わせた観光施設等の整備を
図ってきた。また、地域住民による「名
田庄体験教室」は、豊かな自然を活か
した様々な農林漁業体験活動を行うこ
とができ、都市住民等との交流による
地域活性化に取り組んできた。

自然景観と調和の取れた「かやぶき民
家」を田舎暮らし体験や農業体験教室の宿泊施設として位
置づけ、整備し、宿泊体験の受入体制の強化を図り、更な
る地域の活性化につなげることとした。



福井県おおい町位置

取組活動 の概要

新たな交流事業の展開

古民家(かやぶき民家)を宿泊体験活動等の交流拠点施
設として整備するとともに、豊かな自然や地域資源を活かした
体験プログラムの作成、地元の匠や、昔ながらの生活の
技・味・知識を持った人材を活用した受入体制を整備し、宿
泊体験活動に取り組んだ。

写真は、「山菜料理・きのこ
採り体験」プログラムで旬の
山菜を調理している様子。



代表的成果

宿泊者数10%増の目標に対して、17.8%の増加率、達成率178.00%
2,500人(H17)→2,945人(H20)

体験プログラム3本増の目標に対して、11本の増加 達成率366.67%
9本(H17)→20本(H20)

目標達成 の要因

おおいグリーン・ツーリズム推進委員会が中心となり、地域
資源を活用した体験交流施設(活動)の連携等を進めること
により、交流人口の拡大及び地域の活性化を促進してきた。

地域資源を生かした体験プログラムの充実及び施設整備に
より、当施設が町の宿泊体験活動等
の交流拠点として確立し、都市交流
人口の増加に大きく寄与した。

また交流人口の増加は、インストラ
クターの意識向上につながり、その
相乗効果も大きな要因となった。



今後の課題・展望

グリーン・ツーリズム等の推進による事業
効果が徐々に現れている。

今後は、市町村合併した大飯地区や体験交流を
進める若狭地域内の各地との連携により広域的な
プログラムを開発し、教育旅行の受入等による交流
人口の拡大が望まれる。

